

く見られることで確認されている。

次は、風俗と援助交際を続けているユキの事例である。

<データ10> (): 筆者補足

ユキ：(前略) お客さん、「かわいい」って言ってくれる人もいれば、「いい身体してるね」って言ってくれて、でも(もうちょっと)言ったら、「(女性器の) しまりがいい」だとか、私も敏感やから、そういう意味で喜んでくれるお客さんいて、だいたいの人がもう「かわいい」とか言ってくれるんですよ。

筆者：それはやっぱりうれしい？

ユキ：そりゃもう、うれしいはうれしい。だんだん自分に自信ができた。

(1998.2.19 収録)

自分の身体に対して「コンプレックスのかたまり」だったと言うユキは風俗と援助交際を通して、自分の性的アイデンティティを立ち上げることができた。性的アイデンティティは男性から女性として見られる、扱われる、求められることによって確立されるが、例えば恋人のような男性がいれば確立できるのかといえば必ずしもそうではない。アキには「メッチャ好き」だという「彼氏」がいるが、彼氏から「女性として扱われる」ことだけでは満足できず、他の男性から「もてはやされる」たり、「チャホヤされる」ことが必要なのだと言う。

<データ11> (): 筆者補足

筆者：彼氏だけの生活に欠けてて、(援助交際に) なんかあるかなと思って。

アキ：う～ん、もてはやされることかな。

筆者：(それは) 女性として扱われると言うか…

アキ：そうそう、だから彼氏とでも扱われるけど、(援助交際で扱われるみたいに) そこまでチャホヤしてくれへん。なんかすっごいチャホヤされているから。

筆者：言葉としてはどういふのがあるの？

アキ：う～ん、「すごい、気に入った」とか「他の子とはぜんぜん違う」とか、そんなの

いっぱい言われるし、あとまあ、私は自分の身体にコンプレックス持っているから、う～んと、そんなこともぜんぜん平気っていう感じの話しもあるし、あとそうやな、やっぱり「かわいい」とか言われたら、うれしいし、う～ん、そうやな、どうやろう、やっぱ、もてはやされて、で、それを演じている自分がいてるから、それも楽しいかもしれん、よく考えたら。

(1998.3.24 収録)

チエ、ユキ、アキという三人の事例を紹介したが、これらの事例は何も特殊ではない。これに似た話は、私のフィールドワークにおける事例のほとんどに見ることができる。援助交際自体が先に「援助交際とは、ある人が金品を代償に、他者の性的な部分を自主的に売買することを前提として成立するコミュニケーションである」と定義したように、ある人が性的な何かを売ることによって成立している。ゆえにそもそも性的アイデンティティに何らの影響を及ぼさないような援助交際は無いとも言えるだろう。ただ日常のコミュニケーションでは顕在化されない、できないような性という領域を、援助交際というコミュニケーションは直接的に主題化して扱うので性的アイデンティティに影響を与えることができる。そして今回呈示したデータにおいては、自分の身体にコンプレックスをもつ女性は自分が性的に求められ、性的行為を行うことで、そのコンプレックスを解消できたのである。

4. 結びにかえて： 新しい社会調査論に向けて

以上のような考察を通して、何が言えるのかを整理してみたい。まず押さえておかねばならない点は、援助交際と売春が異なることである。「援助交際とは、ある人が金品を代償に、他者の性的な部分を自主的に売買することを前提として成立するコミュニケーションである」と定義したように、援助交際の特徴は、当事者たちの援助交際という行為に関する能動性、相手への選択性、そして単なる経済的行為として割り切れないコミュニ